



《2023年度事業者防災訓練を行いました》

1月23日、原子力災害発生時における対応力向上を目的に、2023年度事業者防災訓練を実施しました。

訓練は、自然災害の影響により、運転中の女川原子力発電所2号機の原子炉冷却機能が喪失することなどを想定。今回初めて緊急時対策建屋内に発電所対策本部を設置して事故収束に向けた対応指揮・関係箇所との情報連絡などを行いました。

今後もさまざまな事象を想定した訓練を繰り返し行い、災害発生時における対応力向上に努めてまいります。

訓練の様子(緊急時対策建屋内)



対応の指揮をとる阿部所長(写真中央)



発電所の状況を確認する所員

《原子力規制委員会による視察が行われました》

1月13日、原子力規制委員会による女川原子力発電所の現地視察が行われました。当日は、津波対策の一つである海拔29mの防潮堤や緊急時対策建屋などを視察いただきました。

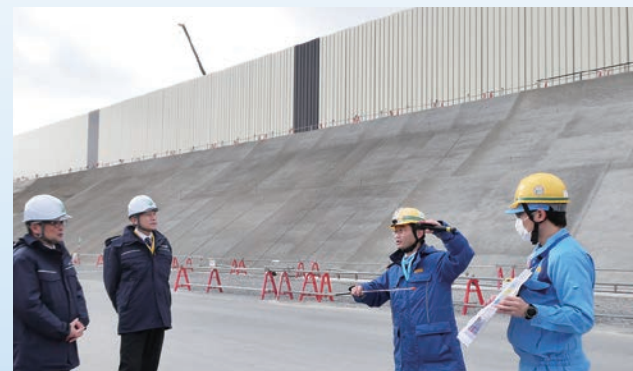
視察後における原子力規制委員会からの主なコメント

山中伸介委員長

- 地震・津波に対する感度の高さを感じた。非常に頑健な防潮堤ができたと思う。
- 緊急時対策建屋は、スペースに十分な余裕があるなど安全に配慮した施設になっている。

杉山智之委員

- 今まで図面や計画で確認してきた工事がかなり出来あがってきていると感じた。



防潮堤の視察
(写真左から杉山委員、山中委員長)



緊急時対策建屋内の視察

上記の記事で紹介しました「緊急時対策建屋」の概要

- ▶大規模な原子力災害が発生した場合の指揮所機能の強化を目的に海拔約60mの高台に設置した耐震構造の建屋。
- ▶関係箇所との通信連絡や発電所の状況を把握するための設備などを設置しており、原子力災害に対処するために十分な機能と広さを有している。

建屋の構造・収容人数

構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造) 地上2階、地下2階
収容人数	最大200名



外観 ▶

《原子力防災訓練が行われ、当社も参加しました》

1月20日、宮城県と女川原子力発電所から30km圏内の7市町※1が主催する「令和5年度原子力防災訓練」が行われました。

訓練は、自然災害により、女川原子力発電所2号機において原子炉冷却機能の喪失により炉心が損傷し放射性物質が大気に放出した想定で、住民避難などが実施されました。当社および協力企業も参加し、避難退域時検査等場所※2において、避難する方々の車両や身体への放射性物質の付着状況を検査するなどしました。

※1 女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町

※2 放射性物質の付着状況を検査し、基準値を超える場合には簡易除染を行う場所。避難所に向かう経路上に開設



避難退域時検査等場所で放射性物質の付着状況を検査する当社社員

《女川町の魅力を発信する動画を公開しています》

当社では、「マカプウ隊長と行く!女川 見たい!食べたい!遊び隊★」を当社公式YouTubeチャンネルで公開しています。

本動画は、当社社員が企画・制作・配信を行っており、当社公式マスコットキャラクター「マカプウ」と当社社員が実際にイベントへの参加や観光スポット巡りをして体感した女川町や牡鹿半島の魅力を紹介しています。

各回2分程度で気軽に視聴できる内容となっていますので、ぜひ、ご覧ください。

第1弾の「おながわ秋の収穫祭」を紹介する動画はこちらからご覧いただけます。

※動画は第1弾から第5弾まで当社公式YouTubeチャンネルで公開中です



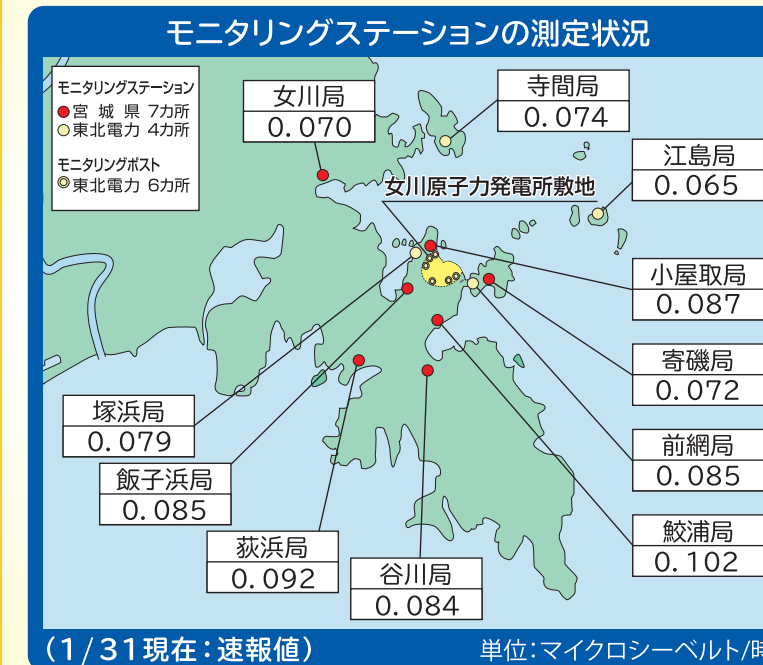
女川原子力発電所の安全性向上に向けた取り組みについて、動画で紹介していますので、ぜひ、ご覧ください。



《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2024年1月31日の測定値は、最大で0.046マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値※3

項目	測定値 (μSv/h)
〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	2011年3月11日 0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	2011年3月13日 1.8~21※4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉	2012年4月1日 0.063~0.098
	2013年4月1日 0.055~0.076
	2022年4月1日 0.033~0.045
	2023年4月1日 0.034~0.046
	2024年1月1日 0.033~0.048
	2024年1月31日 0.033~0.046

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。
 ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
 ※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。
 ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

